# 派 遣 報 告 書(報告者:佐田明美)

大会名	令和6年度全九州高等学校体育大会第77回全九州高等学校バスケットボール競技大会
開催地	鹿児島県薩摩川内市 サンアリーナせんだい 県立川内高校
日 時	令和 6年 6月14日(金)~ 6月16日(日)
担当ゲーム 1	(女子 2 回戦) 県立小林(宮崎県) vs 県立石川(沖縄県)
クルー	CC:佐田明美 U1: 秀島充彦 U2:下田大輔
担当ゲーム 2	(女子準決勝)精華女子 (福岡県) vs 島原中央(長崎県)
クルー	CC:紀伊孝哉 U1: 佐田明美 U2: 水間光亮

#### (担当ゲーム1) Pre-Game Conference

- ・プライマリーを尊重するが、3 人で見えないところをなくす。プライマリーなのに何かしらの理由で判定できないことがある。セカンダリーで笛を鳴らす準備と勇気を持つ。チームもクルーも助けることになる。
- ・ヘルプディフェンダーに対するリードの意識。
- ・プレッシャーが強いチームに対してテンポセット。軽いものではなく、明らかなものを積み上げる。
- ・ベンチとのコミュニケーション。必要ならば、偏らないように公平に両チームとコミュニケーションを取っていく。

## (担当ゲーム1) Post-Game Conference

- ・速攻の場面でリードが 1 番手として鳴らすべきケースがあったが、リードとしてはアングルが取れず、確証が持てない場面で、センターがケイデンスホイッスルで鳴らすことにより、クルーワークとしては良かった。
- ・基本的にはプライマリーのシングルホイッスルとなっていた。ダブルホイッスルになった時もアイコンタクトを取って、プライマリーがレポートできた。
- ・ベンチの「ファウル!」との声にはいきなりテクを吹くことではなく、こちらから声掛けすることで対応できた。
- ・UF の場面で、現場では C4 と判断したが、映像を振り返ると C1 の方が適しているように感じた。



赤8を視野の破片に入れる。 今、プライマリーはセンター。 リードはヘルプディフェンス を把握。



ドライブに対して遅れてヘル プに入ったディフェンスファ ウルをリードがコールした。

#### (担当ゲーム2) Pre-Game Conference

- ・留学生同士のマッチアップが起こる。ボールサイド2を作って、厚く見れるようにする。
- 暑い中でのタフゲームになるので、選手にけがをさせないように。
- ・3 or 2 の確認が必要な時は、確認ができるタイミングで。(時間をあけない)
- ・積極的に鳴らしていこうという感覚を持つ。シングルコールが基本。結果的にダブルコールになることもある。

## (担当ゲーム2) Post-Game Conference

- ・1 Q で留学生を日本人が守る時間帯。背中を当てていくプレイ。イリーガルなものがあった。テンポセットとしてメッセージを送ることでそのあとのプレイ(守り方)が変わったかもしれない。
- ・リードローテーションのタイミングが難しかった。ペイントで見るべきプレイヤーが 4 人いる場合、リードとセンターで役割分担する話がクルーで共有できたら良かった。センターが目をあててくれていることにより、リードが焦ってローテーションする必要がなくなる。)
- ・留学生にマッチアップした選手が倒れる場面が多かった。コミュニケーションをとって対応した方が良かった。

### 今大会に参加しての感想など

各県の上級とクルーになり、リードのヘルプディフェンダーへの意識や、ジャストタイミングではなく、しっかりと形ができてから笛を鳴らしている意識を感じることができた。また、県内の女子には留学生はいないが、プレイスタイルの違うチームに審判として対応する力、チームや選手とコミュニケーションを取りながら、スムーズにゲームを運営していくことなど、普段、意識しているつもりでも、改めて足りない部分がたくさんあることが感じられる大会であった。

高校生の TO は非常に落ち着いており、話しかけると「国体でも TO をやりました」とのことで、昨年、特別国体を経験したことが、スムーズなゲーム運営につながっていると感じた。

最終日は高校生だけでなく、中学生や小学生、さらには県外からも観戦に来ている高校生もあり、九州のバスケットボール人気の高さはもちろん、各地で行われたブロック大会もバスケット LIVE で配信されるなど、関心の高さを表していた。

本県から参加したチームも、柳ヶ浦高校が 3 位に入賞、初戦で敗れたチームも他県との力は拮抗していると思われる。チームだけでなく審判技術の向上も課題であると感じた。

さまざまな課題と発見があった九州大会であった。派遣していただいた大分県バスケットボール協会の皆さま、審判委員会の皆さま、 大会運営にをしてくださった鹿児島県バスケットボール協会及び審判委員会の皆さまに感謝申し上げ、報告といたします。